

龍馬の逸話



国内屈指の遊郭街であった稲荷町は、幕末の志士達が多く足を運び、遊興の場であるとともに政治談議の舞台でもありました。

この界隈には町一番の大店（おおだな）「大阪屋」があり、高杉晋作や伊藤俊輔（博文）らも出入りした「油安」など多くの店が軒を連ねていました。

坂本龍馬が「宮屋」の鬼瓦を切ったという逸話も残っています。